

### (3) 電気自動車(EV)普及促進に向けた研究開発

当社では、EV用の急速充電器や普通充電用機器を開発し、EV普及促進に必要な不可欠な充電インフラ整備を推進しています。急速充電器は2006年度から開発・実証試験に取り組み、2009年9月にグループ会社の(株)キューキから販売を開始しました。また、2009年度から、2種類の普通充電用機器(普通充電スタンド、EVコンセント)の開発に着手しており、普通充電スタンドについては、2011年度中の実用化を目指しています。EVコンセントについては、2010年3月から地元企業より販売を開始し、産業界からの高い評価を得て、第40回日本産業技術大賞「審査委員会特別賞」を受賞しました。今後も、EV普及促進に向け、インフラ利用者の利便性向上や低コスト化に向けて取り組んでいきます。



電気自動車と普通充電スタンド

## 5 周辺環境との調和

設備形成にあたって、周辺の自然環境や都市景観に配慮するとともに、緑地の形成など環境施策の展開に取り組んでいます。

### ● 無電柱化の推進

無電柱化については、都市景観への配慮や安全で快適な通行空間の確保等を踏まえ、全国大での合意(国土交通省、関係省庁、電線管理者等)に基づき、1986年度から計画的に進めています。これまでの取組みにより、当社管内では、市街地の幹線道路等を中心に、約709km(2011年3月末現在)を無電柱化しました。



【無電柱化前】



【無電柱化後】

熊本県内の地中化路線(2010年度整備)

## 6 生物多様性の保全

九州の豊かな自然環境を将来にわたって守り続けていくため、地域の皆さまと一体となって、生物多様性に配慮した様々な活動に取り組んでいます。

### (1) 「女子畑いこいの森」における タコノアシの保全

タコノアシは、湿地や沼など湿った場所に生育する植物で、環境省版レッドリストにも掲載されている準絶滅危惧種です。

当社女子畑発電所ダム周辺にある「女子畑いこいの森」(大分県日田市)にも自生していますが、近年イノシシなどの被害により育成数が減少しています。このため、保護柵の設置など、生育地を保護しながら、増殖に向けた研究を行っています。



タコノアシ



タコノアシ保護の様子

### (2) 坊ガツル湿原における野焼き活動

大分支社では、1999年に地元関係団体などとともに「坊ガツル野焼き実行委員会」を発足させ、以降、毎年ボランティアとして委員会の運営や、野焼き活動への協力を続けています。

野焼きによる湿原保全を通じて、「人が手を加えながら、自然を維持していく」ことに貢献していくために、今後とも、地域の皆さまと一体となって、美しい坊ガツルの湿原保全活動に取り組んでいきます。

なお、「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」(大分県竹田市、九重町)は、2005年に国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録されています。



野焼き風景

## 電磁界について

電力設備から発生する電磁界が居住環境における人の健康に与える影響については、環境省、経済産業省、世界保健機関(WHO)、米国物理学会などによる総合評価がなされており、いずれも人の健康に有害であるとの証拠は認められないとされています。

また、当社の電力設備から発生する電磁界の大きさは、WHOが推奨する国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)のガイドライン値\*及び国が定める電気設備の技術基準に示された規制値(200 $\mu$ T)に比べて、十分低い値となっています。

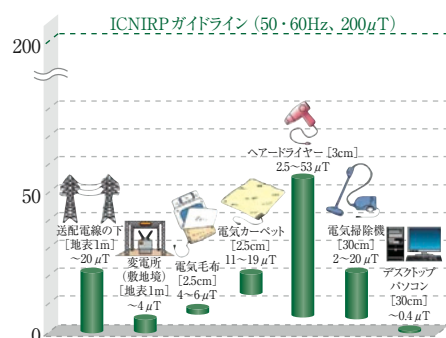
これらのことから、当社としては、電力設備から発生する電磁界が人の健康に有害な影響を及ぼすことはない判断をしています。電力設備から発生する電磁界について、お客さまにご安心いただけるよう、科学的な知識を蓄積していくとともに、ご要望があれば磁界の測定や詳しい内容のご説明をいたします。

\*: 2010年11月に当該ガイドラインが改訂され、従前の制限値(50Hz:100 $\mu$ T、60Hz:83.3 $\mu$ T)が50Hz、60Hzともに200 $\mu$ Tに見直された。



詳細は九州電力ホームページ  
関連・詳細情報(P13参照) 電磁界Q&A

身近にある磁界の発生源 単位:  $\mu$ T(マイクロテスラ)



(注) 設備・製品下 [ ]内は、磁界の強さを測定した距離を示す。  
出典: 「電力設備電磁界対策ワーキンググループ(報告書)、原子力安全・保安部会 電力安全小委員会」より作成。